

互いのよさを認め、高め合える道徳指導の工夫

～心情図による小集団での話し合いとアサーションによる表現活動を取り入れて～

道徳班 宮下 昌志（中学校教諭）

◇研究の概要

道徳の時間において、互いのよさを認め、高め合える道徳指導の工夫を目指したものである。具体的には、心情図を載せたワークシートを用いて少人数による話し合い活動を充実させるとともに、展開の後段に、アサーションの手法を取り入れた表現活動を行い、相手の心情を共感的に受け止めながら自分を振り返る活動を行った。



現状と課題

幼稚園から構成員が変わらぬ単学級ということもあり、長く一緒にいる慣れから積極的なコミュニケーションを図る努力を怠っている。さらに、閉鎖された集団の中では、トラブルがその後の人間関係に影響することがあるため、自らの考えを主張したり、他の考えのよさを受け入れたり、互いに認め合おうとする姿勢があまりみられない。

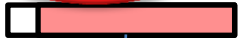
◇全体構想図

授業1「個性の尊重」
(資料)あいつの一言

授業2「友情・信頼」
(資料)絶交

手だて1

主人公の心情図を用いた話し合い



手だて2

アサーショントレーニング



「自分の欲求、考え、気持ちなどを、素直に、正直に、相手のことも尊重しながら、その場の状況にあった適正な方法で表現する」相互尊重のコミュニケーショントレーニングを体験する。

目指す生徒像 互いの良さを認め、高め合える生徒

電子黒板による心情図の提示により、いろいろな考えがあることを知る



ワークシートに示された主人公の心の中と心情図の変化

1 健太君の渡辺君に対する心情図 (道徳活動前)

プラス+ (なし) -マイナス (赤色)

健太君の心の中

渡辺がほめられるのに、何で自分かほめられないのか。自分も渡辺と同じように偉れているのに。

2 健太君の渡辺君に対する心情図 (赤くなったとき)

プラス+ (なし) -マイナス (赤色)

小集団による話し合い活動



アサーションと自分の振り返り活動

◇成果と課題

○心情図を活用しながら、小集団での話し合い活動を行ったことで、意見交換がしやすくなり、お互いの考えを認めながら、自分の異なる考えのよさにも気づくことができた。

○アサーションの表現活動を取り入れたことで、お互いの考えを言い合い、確認しながら、相手を思いやる言葉がけが少しずつ考えられるようになり、道徳的実践意欲を高めることができた。

●扱う資料によって心情図の示し方やアサーションによる表現活動を変えたりして、よりよい話し合いやアサーションの表現活動ができるように資料の検討や時間配分の見直しを図っていく必要がある。

○作業が終わったときの、渡辺君に対しての言葉がけを考えてみよう。

後片付けまでしてくれて、ありがとう。

○今日の授業の感想を書いてみよう。

思わず言ってしまった言葉も、後で自分ごうかいてしまうこともあるけれど、私もつい勢いで言ってしまうことがあるので、1回落ち着いてから言いたいことに。